

製品名: COX10 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09265**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	COX10
別名	COX10; Protoheme IX farnesyltransferase; mitochondrial; Heme O synthase
遺伝子 ID	1352.0
SwissProt ID	Q12887
免疫原	抗血清はヒト COX10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 98-147

背景

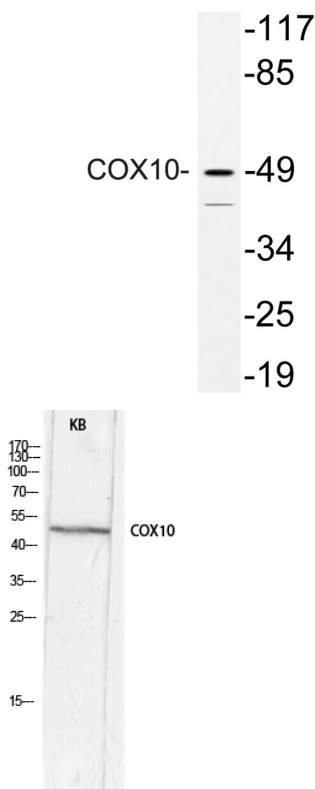
ミトコンドリア呼吸鎖の末端成分であるシトクロム c 酸化酵素 (COX) は、還元されたシトクロム c から酸素への電子伝達を触媒する。この成分は、ミトコンドリア遺伝子によってコードされる 3つの触媒サブユニットと、核遺伝子によってコードされる複数の構

造サブユニットからなるヘテロ多量体複合体である。ミトコンドリアにコードされるサブユニットは電子伝達に機能し、核遺伝子にコードされるサブユニットは複合体の調節および組み立てに機能すると考えられる。この核遺伝子は、構造サブユニットではないが機能的な COX の発現に必須であり、COX の補欠分子族ヘム A の成熟に機能するヘム A: ファルネシルトランスフェラーゼをコードする。このタンパク質は、ミトコンドリア内膜に局在する 7~9 個の膜貫通ドメインを含むと予測されている。遺伝子変異により、リジンが置換される疾患: COX10 の欠陥は、シトクロム c 酸化酵素欠損症 (COX 欠損症) [MIM:220110]の原因である。COX 欠損症は臨床的に多様な疾患である。臨床的特徴は、孤立性ミオパチーから重篤な多臓器疾患まで多岐にわたり、発症は乳児期から成人期まで及ぶ。疾患: COX10 の欠陥は、リー症候群 (LS) [MIM:256000]の原因である。LS は、脳皮質下領域における左右対称の壊死性病変を特徴とする重篤な神経疾患である。機能: プロトヘム IX とファルネシルニリン酸をヘム O に変換する。類似性: ubiA プレニルトランスフェラーゼファミリーに属する。

研究分野

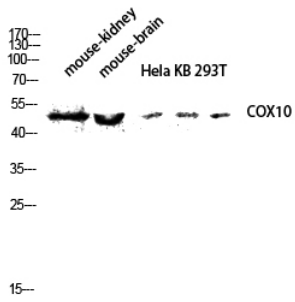
酸化リン酸化、ポルフィリンおよびクロロフィル代謝、

画像データ



COX10 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。

COX10 抗体を用いた KB 溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。



COX10抗体を用いたマウス腎臓およびマウス脳 Hela KB 293T 細胞溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。